

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24531135

研究課題名(和文) アジアにおける美術教育の文脈研究

研究課題名(英文) A Study of the Context of Art Education in Asia

研究代表者

福田 隆真 (FUKUDA, TAKAMASA)

山口大学・教育学部・教授

研究者番号：00142761

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はアジア地域の美術教育の社会的文脈の研究である。調査対象は、韓国、台湾、中国、ベトナム、タイ、カンボジア、マレーシア、シンガポール、インドネシアである。東アジアと東南アジアの特徴のある国と地域の教育課程、教材、実践、美術文化を中心に文献調査と実態調査を行った。美術教育の本質は創造性の育成と美術文化の理解が主である。その具体化のために、歴史や伝統を基盤とした時間的文脈による方法と領域を拡大した空間的文脈による方法が採られている。多様な文化を有するアジアの美術教育の調査では、これら2つの文脈による研究が社会的文脈を明らかにすることが分かった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the social context of art education in Asia. The targeted countries are South Korea, Taiwan, China, Vietnam, Thailand, Cambodia, Malaysia, Singapore and Indonesia. School curriculum, teaching materials, classroom teaching and art culture in countries that have East/Southeast Asian features were researched based on literature and field work. The essential of art education is to develop creativity and to understand art culture. It's embody has two contexts. First is the time context that based on history and tradition in own area. Second is the field context that concludes music, literature, dance and social studies. This research revealed the importance of using these 2 context to research the art education in Asia.

研究分野：社会科学

キーワード：美術教育 アジア 文脈 台湾 シンガポール マレーシア インドネシア ベトナム

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究の開始当初においては、アジア諸国を俯瞰した美術教育の調査研究はほとんど見られなかった。研究代表者と分担者はそれまでに、シンガポール、マレーシア、インドネシアを対象として美術教育課程の実質化の調査研究を行ってきた。その結果、美術教育の本質的内容は国や地域が異なっても、美的感性や創造性の育成、造形的表現力の育成、美術文化の理解のように共通する内容であるが、国や地域の社会的経済的歴史的な状況の相違によって美術教育の具現化が異なり、それがその国や地域の特性となると考えた。

(2)以上のことから、アジアにおける美術教育の多様性と個性を明らかにするためには、東アジアと東南アジアの地域のいくつかを対象として文脈的内容を調査する必要があると考えた。そのために韓国、台湾、中国、ベトナム、カンボジア、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアを調査対象として実施した。

2. 研究の目的

(1)本研究はアジア地域の多様な社会や文化の中で、美術教育がどのような価値や役割を有しているか、学校教育はどのように位置づけられているかを総体的に把握し、総覽的に示すことを目的とする。そのため前述の調査対象国と地域の美術教育において、創造性の育成、視覚リテラシーの育成、美術文化の理解などの美術教育の本質的目標や内容が、どのような社会的、文化的な文脈によって解釈され、教科内容として成立しているのかを明らかにする。そして個々の調査を俯瞰してアジア地域の美術教育を総覽的に考察する。

(2)韓国における目的：

韓国での研究目的は、社会の変化にともなう美術教育課程の変化とそれに基づく教材研究を明らかにする。さらに美術文化との関連を明らかにする。

(3)台湾における目的：

台湾では2001年から開始された学習領域「芸術と人文」の教育課程に基づく教育内容の調査を行う。教科書と教材の実践を調査する。また、教材としての台湾近代美術の調査を行う。

(4)中国における目的：

中国では教育課程の調査を中心にして、教材の調査研究を行う。国土が広大なので、特色ある伝統美術の教材化がどのようになされているのかを調査する。

(5)ベトナムにおける目的：

ベトナムでは教育課程、教材研究、教員養

成、美術教育の背景としての美術文化の調査を行い、社会的文脈における美術教育について明らかにする。

(6)カンボジアにおける目的：

カンボジアでは、教育課程と教材の調査を行う。さらに文化遺産としての美術作品の調査を行う。

(7)タイにおける目的：

タイにおいてもベトナムと同様に教育課程、教科書等による教材の調査を行う。教員養成における教育内容と教育の背景となる伝統的美術と現代的美術の調査も行い、美術教育の社会的背景における文脈を明らかにする。

(8)シンガポールにおける目的：

シンガポールの美術教育の調査は、この20年間、継続的に行ってきた。経済的発展や社会の変化によって美術教育の目的や内容が変化している様子を踏まえて、社会における美術教育の文脈を明らかにする。

(9)マレーシアにおける目的：

マレーシアの美術教育についても約20年間継続的に調査を進めてきたので、近年の変更点等も含めて、美術教育の社会的文脈を明らかにする。

(10)インドネシアにおける目的：

インドネシアについては20年以前の調査から中断している状況なので、近年の社会情勢の変化にともなう美術教育の教育課程、教育内容の調査を行い、美術教育の社会的役割を明らかにする。

3. 研究の方法

研究の方法としては、調査対象国や地域美術教育とそれを支える美術文化を含めて、文献調査と実態調査の2つによって行った。美術教育の全体的把握として、教育課程と教科書、教員養成、それらの背景である美術文化を中心に文献調査と実態調査を行った。

(1)韓国における調査：

韓国については最新の教育課程を把握し、教科書教材、京仁教育大学、淑明女子大学美術学部、美術館、博物館等の実態調査を行った。教育課程に基づいて伝統的な美術文化の理解、現代美術の理解、美術の社会的役割、異文化理解等が進められている。中学校段階では視覚言語が教材に導入され、個人の美的感性や表現力の育成の基盤として位置付けられていると同時に、分析的に美術文化を理解する方法となっている。また、デザインと産業の関係の理解も促され、美術の社会的役割の理解も進んでいる。さらに、グローバル社会に伴う異文化社会の拡大から多元的文化の

理解にも美術が機能している。

(2)台湾における調査：

台湾においては、教育課程はすでに把握しているので、実質化についての実態調査を行った。「芸術と人文」の実践を通しての実質化について、台北教育大学、東華大学、彰化教育大学において教員養成との関連を調査し、台北教育大学附属小学校で教材の実践を調査した。また、美術教育としての背景の伝統的美術、現代的美術の調査を故宮博物館、台北市立美術館、台湾美術館、高雄市立美術館等で調査を行い、美術教育との関連を明らかにした。

(3)中国における調査：

中国の調査は、文献と日本での取材によるもので、中国在住や来日の大学教員、大学院留学生を通じて教育の現状について調査を行った。教育課程はすでに調査を行っているため、教科書や具体的教材、教育方法などの調査を行った。教育課程に基づく実践は広大な国土のため地域の主体性によるものが多いが、伝統文化の理解やデザインについてはある程度共通している。

(4)ベトナムにおける調査：

ベトナムにおいては、ハノイの教育訓練省において教育課程の調査を行い、教育大学、美術大学において教育と美術との関連を調査した。教育の背景となる美術文化については美術館において古代から近現代までの美術の概略を調査した。また、教材と教育実践については、ハノイ市内の公立小学校、中学校において調査を行った。教科書についてはその教材構成について調査を行った。

また、課外活動の芸術教育機関として「子供の宮殿」において、美術教育の実践と教育方法について調査を行った。

(5)カンボジアにおける調査：

カンボジアについては、学校教育において美術の教科はまだなされておらず、社会科に含まれている。教育課程と教員養成の概略的な調査を行った。文化遺産の歴史的背景や生活工芸については文献と実物により調査を行った。

(6)タイにおける調査：

タイの調査はほかの国と同様、教育課程の把握、教科書等における教材、チュラロンコン大学教育学部での教員養成と美術文化の調査を行った。さらに現代美術と伝統的美術文化の調査を行った。

(7)シンガポールにおける調査：

シンガポールについてはすでにある程度の調査を行ってきたので、教員研修、美術館との連携、芸術高校の開設、現代美術の導入

等の観点から実態調査を行った。教育の質の向上のために教員研修と美術館との連携による美術教育の調査を行った。芸術高校については、クロスカリキュラムの教育課程と教育内容について実態調査を行った。さらに新しい美術館の開館にともない、シンガポールのアイデンティティに関わる調査を行った。

(8)マレーシアにおける調査：

マレーシアの美術教育については、継続的な調査を実施した。教育大学における教育課程の調査、現代美術と美術教育の関係を中心にして、経済発展による社会の変化と美術教育の機能や役割、グローバル化による伝統文化のあり方などを調査した。

(9)インドネシアにおける調査

インドネシアにおける調査は、教育省での教育課程と教科書における教材研究、ジャカルタ州立大学での教員養成、美術館博物館での美術文化の調査を行った。これらの調査を、現在のインドネシアにおける美術教育の社会的文脈を考察する基礎資料とした。

4. 研究成果

前述の国と地域の調査により、美術教育の文脈について以下のように考察した。

(1)美術教育の文脈について

本調査研究はアジア地域のなかでも東アジアと東南アジアを対象とした。東アジアは伝統的美術・工芸を有しており、東南アジアは地域の伝統的工芸文化を有していたことと西洋の統治を受けたことにより西洋文化が東アジア地域よりも早く影響していたことが特徴である。そうしたことから美術教育の文脈として、歴史的経緯による「時間的文脈」が想定される。

また、東アジアも東南アジアも 20 世紀以降は伝統的な技術に加え、西洋文明の影響を受けた。美術に関してはデザインの概念の普及により美術教育の領域が拡大された。また 1980 年代以降は現代美術が活発になり、社会問題や環境問題などのメッセージや地域の活性化のためのアートイベントなどが開催され、美術教育の領域も拡大してきた。それらは「空間的文脈」と捉えることができる。

美術教育の文脈としてもう一つの考え方は、グローバル化と伝統文化の関係である。アジア地域の美術文化は経済成長に伴い、デザインの普及や活性化が促進し、手作りの工芸品から機械生産による製品へと変化したり、情報化社会による情報デザインが普及したりと、美術教育は精神的所産の文化と技術的所産の文明の両者を包含するようになった。

こうした社会の変化によって、アジア地域の美術教育はその目的である創造性の育成、表現力の育成、美術文化の理解、情操の育成

など本質に大きな相違は少ないが、それぞれの国や地域においては美術教育の具現化の教育課程や教材、教育方法に独自性を有している。以上のように、美術教育の内容や位置付けや特徴を調査研究する場合には、美術教育の本質と文脈の関連によって考察する必要があることが明らかになった。

(2)東アジアの事例

東アジアでの実態調査は韓国と台湾を対象に実施した。どちらにも共通することは伝統文化の理解・継承とそれに基づく創造である。時間的文脈による美術教育である。それは同時にアイデンティティの再認識に関連している。また、韓国では伝統文化とアイデンティティの認識により、グローバル化した世界を受容しながら現代美術の促進を行っている。時間的文脈と空間的文脈の融合が見られる。

台湾では同じく空間的文脈として視覚美術と音楽、パフォーマンスアートの融合による創造性の育成ということを実践している。学習領域の「芸術と人文」であり、空間的な文脈を重視した美術教育の実践である。この学習では地域社会の学習や歴史的遺産の学習をも含み、社会認識の手段の一つとなっている。また、伝統的な美術に加えて現代美術の理解を行い、社会に対するメッセージを含んだ教材を実践している。これも社会認識の一部となっている。

(3)東南アジアの事例

東南アジアでは、例えばシンガポールでは、文脈として、第一に、民族のアイデンティティを保持しつつ国民としての一体感を図ろうとする国民統合と文化創造という文脈である。そして、第二に、美術教育を通して開発しようとする「創造性」という文脈である。産業構造が輸入代替型から輸出志向型、さらに知識集約型へと転換していく中で、知識基盤経済に対応した新しい文脈での創造性が求められるようになった。美術教育における「創造性」は、実在を使って創造する表現技能から、視覚リテラシーを含む多様な表現メディアを扱える総合的な力と解釈されるようになった。美術教育の本質に創造性の育成ということが存在し、それらは社会的な文脈の上で、国民統合と関連したり、産業と関連したりするというシンガポール独自の特徴が見られる。このように、美術教育の特徴は本質と文脈との関連で出現することが明らかになった。

また、同じような民族構成ではあるが、マレーシアにおいてはシンガポールとはやや異なり、プミプトラ政策によるマレー文化の強調と伝統的工芸の評価が美術教育に採用されている。また、伝統工芸を現代化して再生したり、他の表現分野と融合したりすることで創造性の育成を行うとともに、製品開発につながり産業への貢献を行って

いる。このように時間的文脈と空間的文脈の両者を活用し、社会的な役割を果たしていることが明らかになった。また、美術教育の方法としては、西洋からの影響の視覚言語による造形要素と造形原理の活用を採用して、グローバル化と独自の文化への理解の手段としている。

インドネシアにおいては、「多様性の中の統一」という国是から、多様な美術文化を認め、伝統的美術の継承、西洋文化との融合による近代美術の進展、グローバル化による現代美術の発展などが行われている。美術教育はそうした背景において、伝統工芸の継承と再生、デザインの普及、美術文化の理解などの教材が実施されている。多様な美術を認め合う空間的文脈と伝統的工芸に基づく再生や創造性の育成という時間的文脈の両者を活用していることが明らかになった。こうして美術教育は手工作をはじめとして社会的な貢献をなしている。

ベトナムにおける美術教育では、伝統的な美術文化を重視している点では、時間的文脈に依拠しており、フランスの影響を受けつつも独自の近代美術を進めている。また、学校教育以外に共産党の主催する課外活動としての芸術教育機関である「子供の宮殿」のように芸術の普及活動を行い、学校教育以外の教育が社会に根付いている。美術教育が学校教育の文脈と政党の文脈の2つによってなされていることが明らかになった。

タイの美術教育では長い歴史を有した独自の美術文化に基づく時間的文脈と現代美術による空間的文脈の融合を図りながら、特徴のある美術教育が行われている。教員養成においても、伝統文化を基盤にした創造的表現の育成とグローバル化によるデザインや現代美術の教育を行っている。

カンボジアでは美術教育は社会科の一部であり、現在のところ僅かに表現分野の教材が実施されていることと、社会科として文化遺産の理解学習を行っていることが明らかになった。

以上のことから、アジアにおける美術教育は多様性と独自性を持っており、美術教育の本質は人間と美術の関係で捉えれば、いずれの国や地域においても共通する内容である。しかし、多様な社会における美術教育の具体化は、社会の持っている時間的文脈と空間的文脈を基盤としている。美術教育の地域研究においては、この時間的文脈と空間的文脈の関係を構造的にとらえて行うことで、その地域の特性を読み取ることができると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 22件)

佐々木空、シンガポールにおける 2009 年美術シラバスに基づく美術教育の実践状況、美術教育学研究、査読有、48 巻、2016、177 - 184

福田隆眞、石井由理、森下徹、王宇鵬、台湾における芸術教育について、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、41 号、2016、139 - 146

福田隆眞、インドネシアの高等学校における美術教育教材、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、41 号、2016、147 - 151

佐々木空、シンガポールにおける芸術教育の系譜(2)、釧路論集、査読無、47 号、2015、239 - 252

佐々木空、韓国と台湾における近代美術教育、北海道教育大学紀要教育科学編、査読無、66 巻、2015、239 - 252

福田隆眞、佐々木空、インドネシアの小学校美術教育について、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、40 号、2015、73 - 80

佐々木空、自治政府成立期のシンガポールにおける美術教育課程、美術教育学研究、査読有、47 巻、2015、127 - 134

福田隆眞、王宇鵬、陳澄波の美術活動とその影響について、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、39 号、2015、149 - 156

佐々木空、福田隆眞、台湾の芸術教育教科書における近代美術、北海道教育大学紀要教育科学編、査読無、65 巻、2015、277 - 290

福田隆眞、立川奈緒、ベトナムの近代絵画と美術教育、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、39 号 2015、139 - 148

佐々木空、シンガポールにおける芸術教育の系譜：1959 年「美術と工芸」シラバスに基づいて、釧路論集、査読無、46 号、2014、195 - 204

佐々木空、中西沙織、福田隆眞、シンガポールの芸術振興政策と芸術教育、北海道教育大学紀要教育科学編、査読無、65 巻、2014、73 - 88

佐々木空、多民族・多文化国家シンガポールの美術教育、教育美術、査読無、依頼原稿、2015 - 1 号、2014、38 - 41

福田隆眞、リエン、ベトナムの美術教育の実践、教育美術、査読無、依頼原稿、2015 - 1 号、2014、34 - 37

福田隆眞、アジアの美術教育 多様性と個性、教育美術、査読無、依頼原稿、2015 - 1 号、2014、32 - 33

福田隆眞、佐々木空、インドネシアの近代美術と美術教育について、山口大学教育学部研究論叢、査読無、2014、209 - 221

福田隆眞、趙忠華、高等学校芸術の書道と漢字の美について、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、36 号、2013、27 - 34

福田隆眞、佐々木空、麻麗娟、日本中小新学習指導要領及教材紹介、当代美術教育研究、査読有、2013、169 - 177

福田隆眞、佐々木空、インドネシアの中学校美術教育の教材について、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、36 号、2013、27 - 34

佐々木空、シンガポールの初等学校美術教育における新シラバスと教科書 2009 年実施のシラバスと教科書に基づいて、美術科教育学会誌『美術教育学』、査読有、2013、34 巻、205 - 216

②福田隆眞、佐々木空、ウォン・ティ・ビク・リエン、ベトナムにおける中学校美術教育内容について 教科書による教材を中心に、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、35 号、2013、19 - 28

②福田隆眞、阿部萌、美術教育における共通事項の教材について、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、34 号、2012、67-76

〔学会発表〕(計 6 件)

福田隆眞、東南アジアにおける美術教育の現状、ジャカルタ州立大学美術教育セミナー(招待講演)、2016、ジャカルタ州立大学(インドネシア・ジャカルタ市)

佐々木空、シンガポールの初等・中等学校における美術教育の実践研究、第 54 回大学美術教育学会横浜大会、2015、横浜国立大学(神奈川県・横浜市)

佐々木空、福田隆眞、中西沙織、The Research of the Influence of Western Culture and Development of Originalities in Asian Art Education、CARE Forum Series、Unesco-Nie Centre for Arts Research in Education(招待講演)、2014、National Institute of Education、Singapore

福田隆眞、趙忠華、中国の高等学校美術教育について、釜山大学美術学部美術教育セミナー(招待講演)、2014、釜山大学(釜山・韓国)

福田隆眞、視覚言語と日本美術の特性、釜山大学美術学部美術教育セミナー(招待講演)、2014、釜山大学(韓国・釜山)

福田隆眞、アジアの美術文化理解のための視覚言語：収斂と多様性、韓国造形教育学会(招待講演)、2013、明示大学(韓国・ソウル)

〔図書〕(計 1 件)

国立大学法人山口大学大学院東アジア研究科(編著)、福田隆眞、石井由理(編集責任、執筆)、羅永華・有元光彦・森下徹・吉川幸男・林曼麗・金香美・佐々木空・足立直之・Chee Hoo Lum・何慧中・高橋雅子・阿川祥子(執筆)、教育におけるグローバル化と伝統文化、201 ページ(福田 97-114、佐々木 115-132)、2014、建帛社

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福田 隆真 (FUKUDA, Takamasa)
山口大学・教育学部・教授
研究者番号：00142761

(2) 研究分担者

佐々木 宰 (SASAKI, Tsukasa)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：40261375

(3) 連携研究者

()

研究者番号：